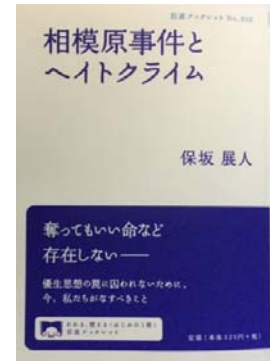


## 相模原事件とヘイトクライム

世田谷区長をつとめる保坂展人さんによる「岩波ブックレット」(2016年11月)。構成は次の4章。第1章 相模原事件の波紋、第2章 障害当事者は事件をどう受けとめたのか、第3章 ナチス・ドイツの「T4作戦」、第4章 ヘイトクライムの「拡大・連鎖」の根を断つために。

新聞や雑誌から数多くの発言などを読んできたが、事件から半年後の今日、第2章の障害当事者、横山晃久・自立センターHANDS 世田谷理事長の発言を抜粋して紹介したい。



今日[8月8日]で事件から10日くらい経ちます。この間、僕が意識しているのは、エレベーターや満員電車に乗るときです。周囲の人が、ベビーカーはいいけれど、障害者の車椅子はあっちに行け、と思っているのが視線でわかります。口には出さないけれど、「お前たちは邪魔だ」、もっと言えば、「金食い虫だ」と思っている。僕はよく親から「金食い息子」と言われました。そういう意識が今でもあると思います。他者を排除するのではなく認めあうことが必要です。

事件が起こってからは人々の視線が厳しくなりました。考え過ぎかもしれませんが、誰にでも「障害者は邪魔だ」という意識があるのではないですか。せつかく障害者差別解消法ができたのに、なんだこれは、という思いがします。ですから、事件については、やはり起きたか、と思いました。僕は生まれつきの脳性まひなので、優生思想の問題をものすごく感じています。そして、僕は生まれつき障害を持っているので、中途障害の人とは違ってきます。

今回の事件には三つの問題があります。①施設の問題、②親の意識の問題、③優生思想の問題です。報道ではこれらがごちゃごちゃになっています。

僕が親の意識にこだわっているのは、今回の被害者の名前が明らかにされないからです。たとえば、飛行機事故が起こると、被害者はどんなに幼い子どもでも名前が出ます。今回の被害者は20代から60代の人たちなのに、名前が出てこない。これは親の意思によるのでしょうか。僕もかつて施設に入っていました。施設というのは特別な空間です。誰ひとり来ない。家族も友だちも来ない。

僕が入っていたのは、重い身体障害者の施設です。職員には逆らうことができません。たとえば、今日はお腹が痛いと言っているのに、口に食べ物を無理やり入れてくる。誰にだって食べたくないときはあります。それを確認しないで、口を無理に開けさせ、食べ物を放り込む。……

(2017年1月26日)